

# 久屋大通（南エリア）再整備の方向性（案）

(1/3)

## 名古屋を発信するシンボル公園



- 大規模なイベントなど  
名古屋を代表するにぎわい空間
- テレビ塔や開放的な空間を活かした  
良好な都市景観による名古屋の顔となる空間



### 後世に受け継ぐべき視点

#### 戦災復興による公園

- 2 km のグリーンインフラ
- 都心のオープンスペース



#### 都心の憩いとなる公園

- 芝生や緑陰など、自然を感じられる居心地のよい空間
- 子どもの遊び場の確保や可動式椅子の設置等普段使いしたくなる空間
- バリアフリーや防災・防犯機能強化



### 新たに導入する視点

#### 毎日にぎわう公園

- イベントの開催しやすさと、準備期間を短縮する設備強化
- 日常的に利用できる集客施設
- 多様なニーズに応じた利用ルール



#### まちを歩きたくなる公園

- 地上と地下、広場間、沿道と公園の連続性の強化
- 北・テレビ塔エリアや大須方面等との回遊性の向上
- 入庫待ち車列や路上駐車等の解消



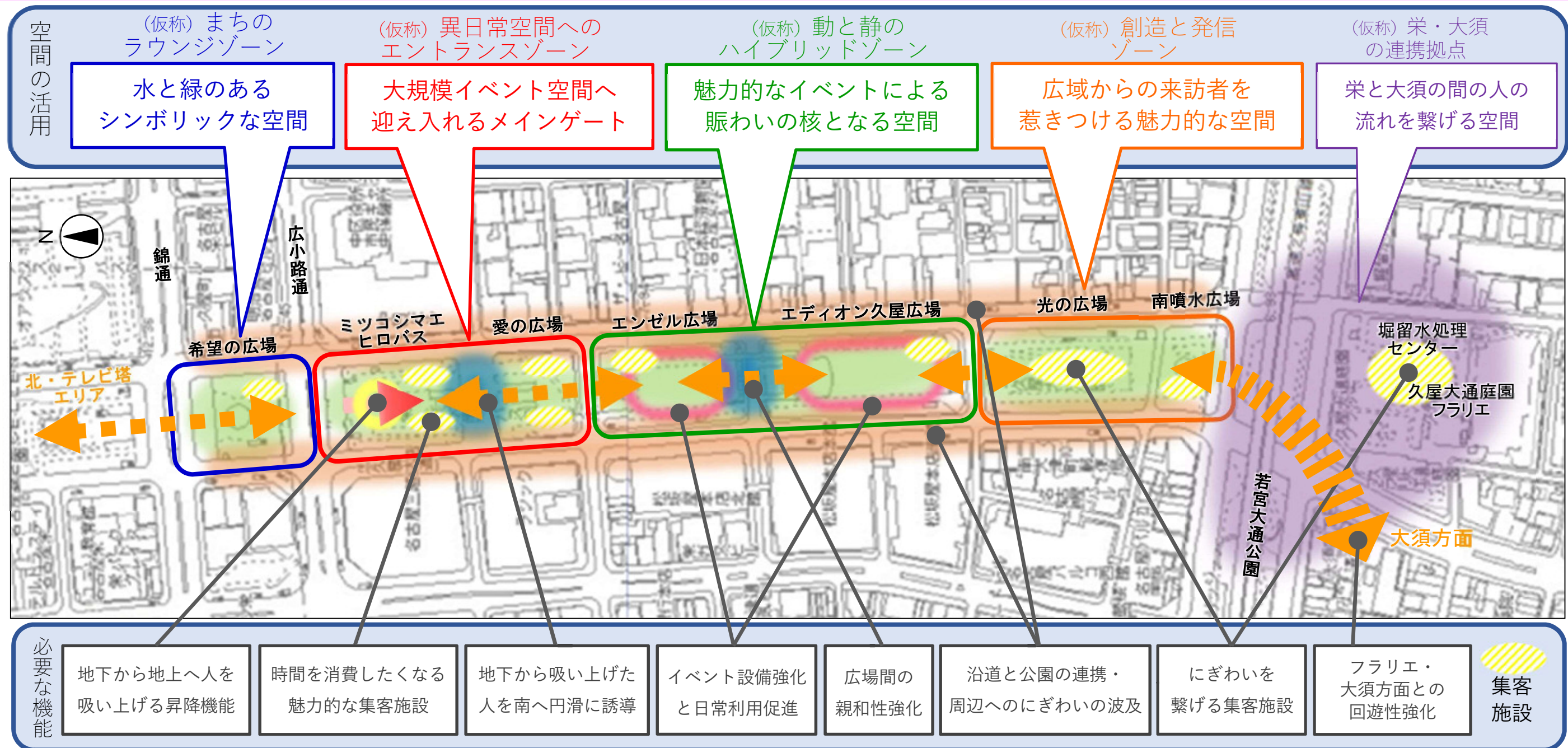
## 「新たな創造が生まれるウォーカブルタウンのコア」

～多様な人が集まる刺激と居心地～



# 久屋大通 (南エリア) 再整備の方向性 (案)

## 空間活用と必要な機能のイメージ



## 事業スキームの望ましいあり方

### ■官民連携手法の活用

・整備から管理運営までを含め、官民連携手法を活用することにより、民間事業者の活力やノウハウを活かして、効率的で質の高い公園整備・管理運営に繋げ、利用者サービス向上を図ります。

### ■沿道・周辺地域関係者等との連携

・公園と沿道・周辺地域が一体となった公園として再生していくため、公園に関わる関係者等が公園の整備管理運営事業に積極的に関わっていく事業スキームが必要です。

### ■公園の積極的かつ柔軟な管理運営

・公園の魅力や活用の仕方を積極的に発信しつつ、利用者の多彩なニーズに応じたホスピタリティある管理運営を推進します。



# 久屋大通（南エリア）再整備の方向性（案）

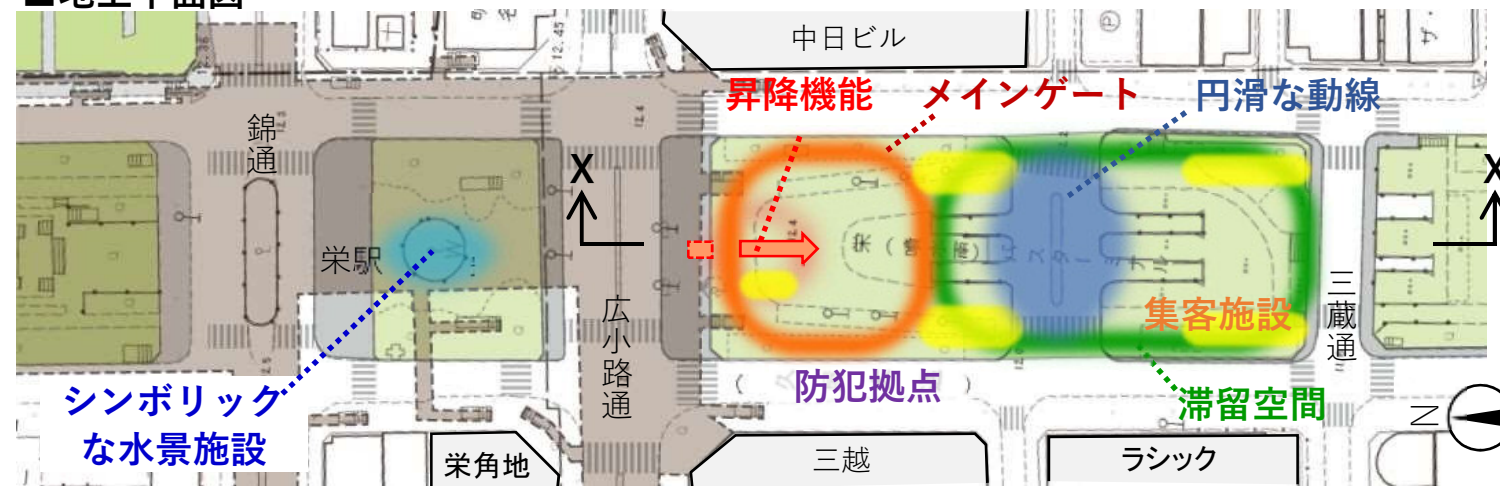
## （仮称）「まちのラウンジ」ゾーン（希望の広場）

### （空間活用の考え方）シンボリックな空間

- 栄地区のど真ん中、かつ久屋大通公園の中心に位置する水と緑のあるシンボリックな空間活用

### （必要な機能）

#### ■地上平面図

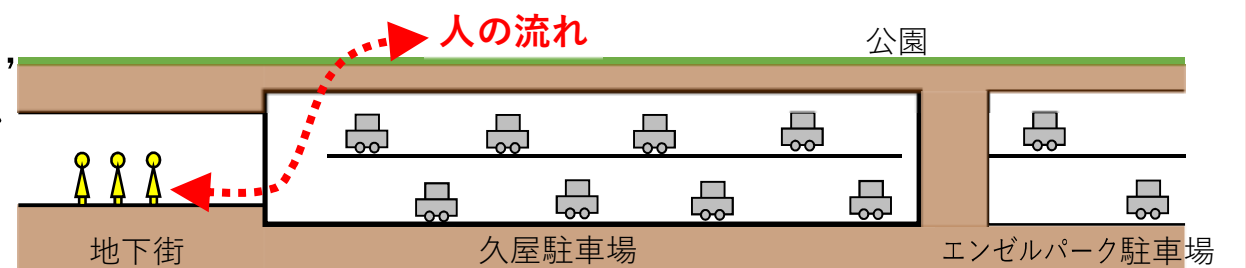


## （仮称）「異日常空間へのエントランス」ゾーン（ミツコシマエ ヒロバス、愛の広場）

### 大規模イベント空間へ迎え入れるためのメインゲート

- 地下鉄、地下街から新たな人の流れを創出し、地上公園・大規模イベント空間へ迎え入れるためのメインゲートとなり、アーバンツーリズムの出发点ともなる、新たな待ち合わせの名所としての役割を担う
- 地下街、沿道商業施設、イベントなどに訪れた人が、気兼ねなく立ち寄れる滞留空間を創出し、栄地区を歩き回り、時間を消費したくなるきっかけづくりを行う
- 栄の中心地で、来訪者が安心してまち歩きを楽しめるように、防犯拠点としての活用を図る

#### ■地下断面図 (X-X')



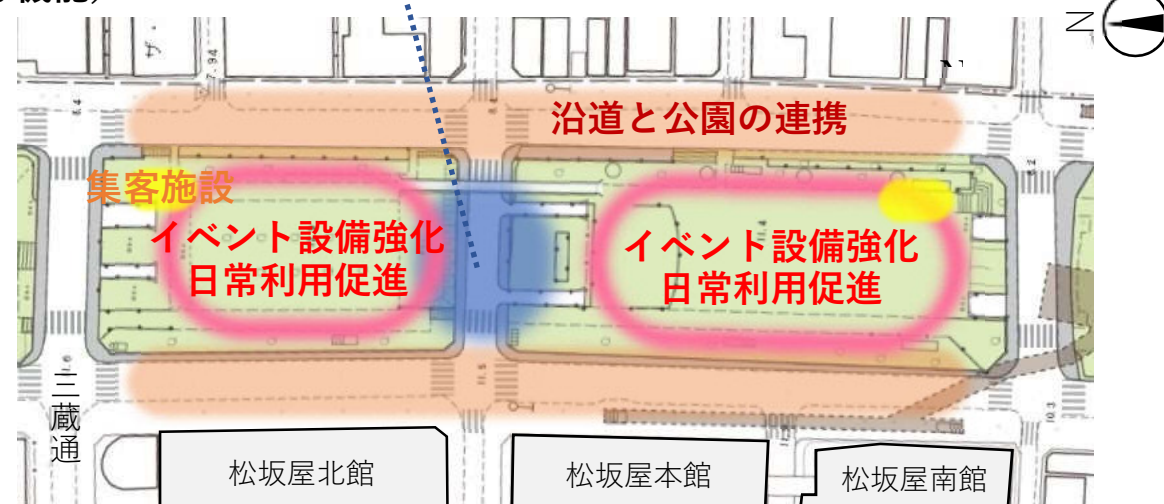
## （仮称）「動と静のハイブリッド」ゾーン（エンゼル広場、エディオン久屋広場）

### （空間活用の考え方）魅力的なイベントによる賑わいの核となる空間

- 名古屋を広く発信する場として、より魅力的で大規模なイベントを開催する
- イベント機能の強化によりイベントを開催しやすくするとともに、設営や撤去の期間短縮を図ることで、広場の利用可能期間を拡張する
- 集客施設や憩いの場など日常的な利用にも配慮した空間とすることで、イベント時だけでなくにぎわいの恒常化を図る
- 公園と沿道の連続性や親和性を向上させ、イベントのにぎわいを周辺に波及させる

### （必要な機能）

#### 広場間の親和性向上

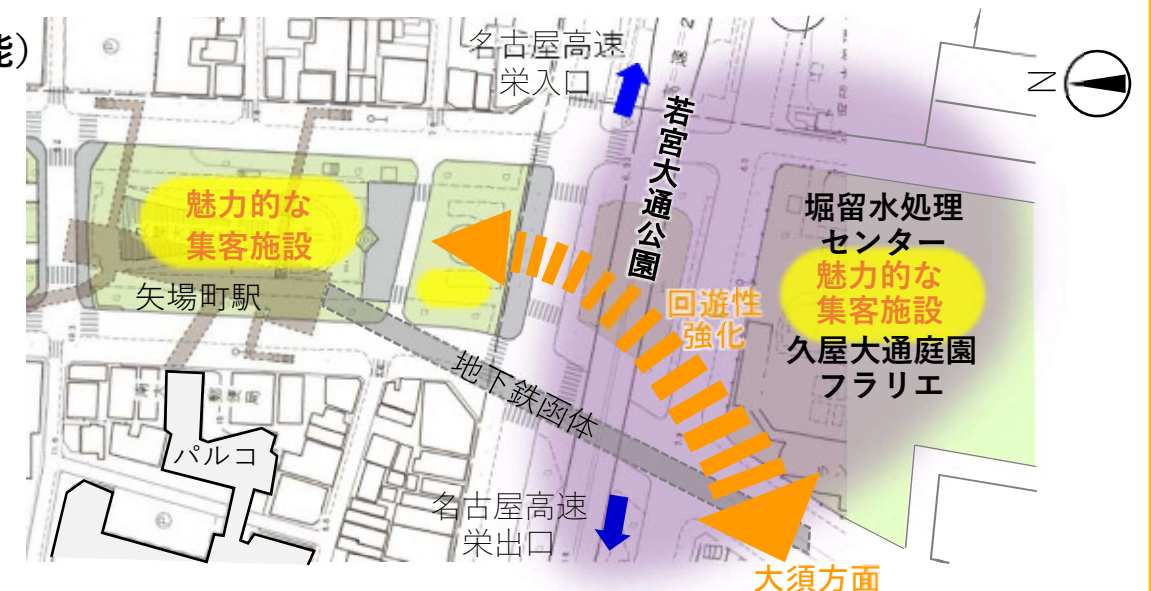


## （仮称）「創造と発信」ゾーン（光の広場、南噴水広場）+ （仮称）栄・大須の連携拠点

### （空間活用の考え方）広域から人を惹き付け、栄・大須の人の流れを繋げる空間

- これまで久屋大通を訪れていた人(イベント目的を含む)だけでなく、広域(国内外)からの来訪者を惹きつけられるような魅力的な機能を持たせ、新たな人々が訪れたいくなるような仕掛けづくりをしていき、栄地区のブランディング強化(知名度向上)の一端を担う
- 名古屋を代表する観光地であり、多くの人で賑わう大須地区や久屋大通庭園フラリエとの連続性を強化し、双方に人が行き来することでまちの回遊性を高める

### （必要な機能）



※施設配置等はイメージです



久屋大通（南エリア）の現状と課題

① 憩いの空間としての魅力

【現状】

○公園の両側に樹木が列植された、都心部における緑に囲まれた貴重なオープンスペースであり、沿道の建物と一体となった良好な都市景観を形成

【課題】

▲無機質感で殺風景な広場で、施設の老朽化も進んでおり、潤いや安らぎ、居心地の良さなど、憩いの空間としての魅力が乏しい



憩いの空間の魅力が乏しい

② にぎわいの空間としての魅力

【現状】

○沿道には大規模商業施設が連担し、公園では年間を通して、週末を中心に、各種大規模イベントが開催され、それぞれ賑わいをみせている

○イベント件数 (R元) : 約 60 件 (週 1 回)

○イベント開催日数 (R元) : 約 120 日 (設営は除く)

【課題】

▲沿道と公園の見通しやアクセスが悪いため、イベントの賑わいが周辺に波及していない  
 ▲イベントの設営・撤去作業のため、週末の前後は公園としての利用ができない  
 ▲無機質感で殺風景な広場であるため、イベント非開催時の平日や夜間は閑散としている



にっぽんど真ん中祭り (来場者数：数十万人)



オクトーバーフェスト (来場者数：12万人)

③ 公園と沿道、地下空間との回遊性

【現状】

○久屋大通は、中央に公園、両側に片側 3 車線の車道のある広幅員道路で、広い歩道空間を有する

○南エリアは、北端で地下鉄栄駅を中心とした交通結節点、南端で 100m 道路である若宮大通と接し、地下には、都市計画地下駐車場が存在する

【課題】

▲沿道と公園に大きな高低差、地下駐車場や沿道百貨店の駐車場への入庫待ちの車による渋滞・路上駐車が見られ、公園と沿道の一体感が乏しい  
 ▲広場間は、東西道路部における高低差や地下駐車場の入庫車と横断歩行者との交錯が見られ、各広場の一体的な利用の制約になっている  
 ▲地下施設と公園を結ぶエレベーター等の昇降設備が少なく、バリアフリー経路が確保されていない



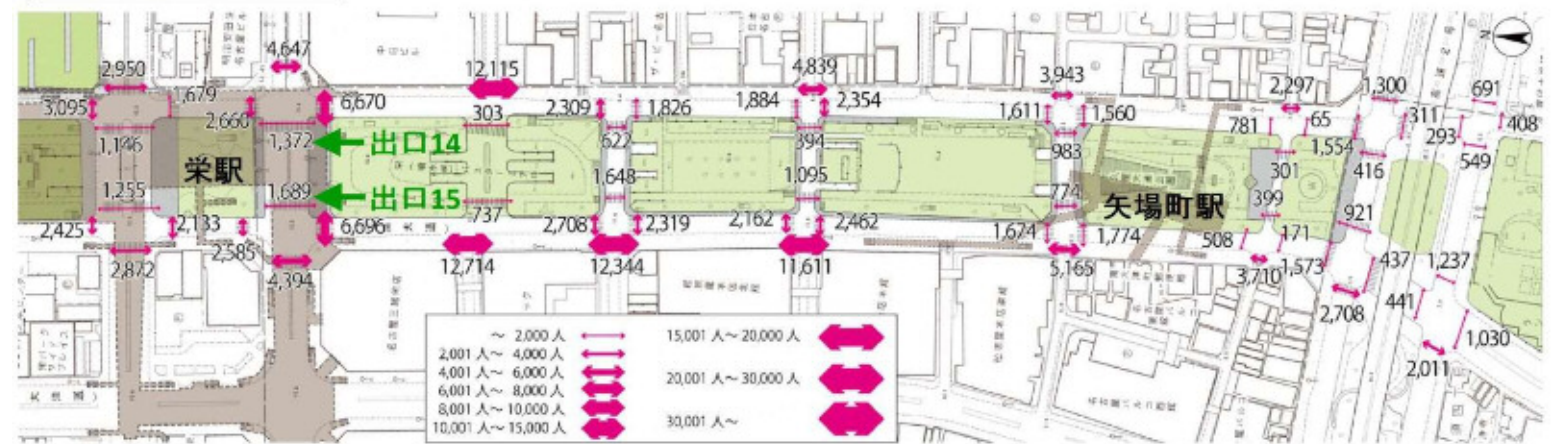
沿道と公園の大きな高低差 入庫待ち車両による渋滞



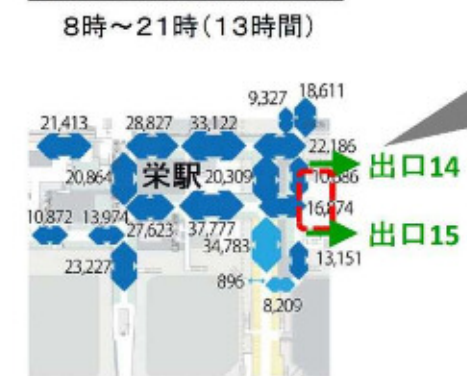
路上駐車・入庫待ち車両による渋滞

■南エリアの人の流れの現状 (平日)

現況歩行者交通量(地上) 7時~19時(12時間)



現況歩行者交通量(地下) 8時~21時(13時間)



栄駅の付近の歩行者交通量は地下が地上の10倍以上であるため、地下鉄・地下街から地上へ人を誘う仕掛けがあると公園の賑わい創出が期待できる(現状は出口が分かりづらい)



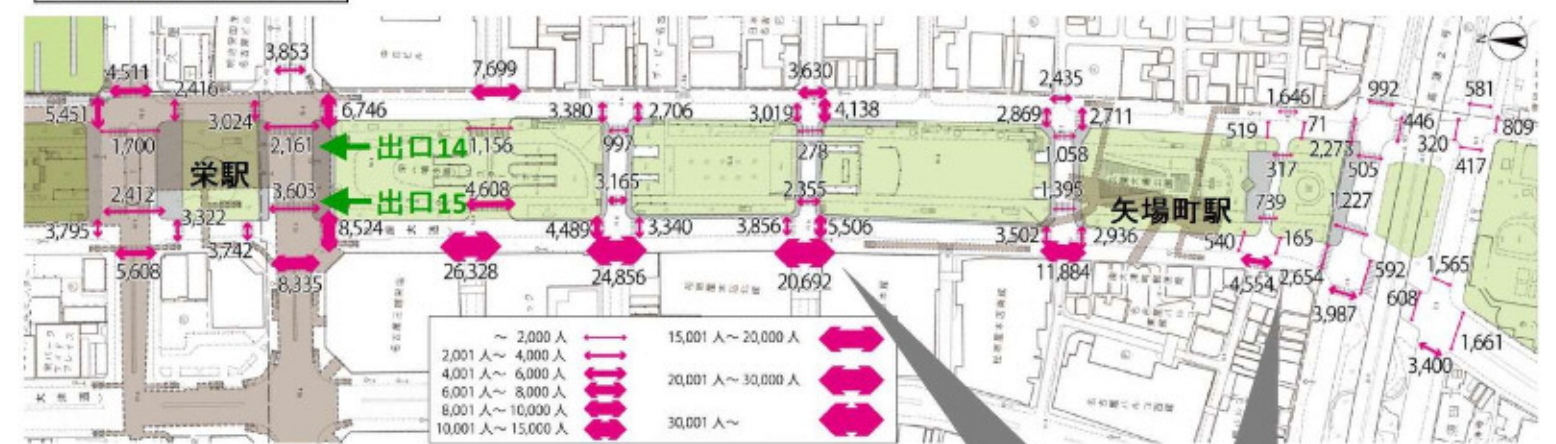
出口14

出口15



■南エリアの人の流れの現状 (休日)

現況歩行者交通量(地上) 7時~19時(12時間)



現況歩行者交通量(地下) 8時~21時(13時間)



休日の沿道大型商業施設前の歩行者交通量は、栄駅付近の地下歩行者と同等程度多いため、公園と沿道・周辺の往来がしやすくなる仕掛けにより、南エリアにおいて賑わいの面的な拡がりが見込める

東西の沿道との繋がりや大須方面への連続性を高める仕掛けにより、沿道や南側への人の流れが期待できる